

次世代ネットワーク“NGN”のサービス開始を祝す

NTTは本年3月31日にNGN（次世代ネットワーク）の商用サービスを首都圏と大阪府内の一部地域で開始した。NGNは従来の銅線を使った電話の全国網を光ファイバー回線に置き換え、電話だけでなく高速インターネット接続やテレビ電話などを一括して提供するサービスで、自由で柔軟なインターネットの特徴と、安心・安全で確実なサービスを提供するキャリアの特徴を併せ持ったネットワークであり、NTTが04年頃から開発を進め、いよいよ本格サービスの段階に入ったわけである。

サービスの名称は、NTT東西ともに「フレッツ光ネクスト」とし、サービス内容は、現行の電話や高速ネット通信に加え、高精細映像のテレビ電話、高音質通話サービス、通信速度保証サービス、ドラマや映画などの高画質映像の有料配信などのほか、地上デジタル放送の再送信などを予定している。

地上デジタル放送の再送信は、一部の放送事業者から再送信の同意が得られなかったために、サービス開始時点では間に合わず、今のところ再放送の開始時期は未定としている。しかし、地上デジタル放送の再送信は、通信と放送の融合を具体化するものであり、早期の実現が期待されている。なお、現在の放送免許は県単位が原則になっているため、再送信は県内限定という条件が付けられた。NTTはそのために数十億円以上の投資が必要であり、果たしてその投資回収が可能なのか疑問視する向きもある。

今後のサービスエリアの拡大計画は、

2008年度内に政令指定都市に拡大し、県庁所在地級都市への展開を開始することとしており、2010年度末までには現行の光アクセスサービス提供エリア全域に拡大する予定である。

それでは、NGNによってどのようなサービスが期待できるのでしょうか。NTTグループ各社は、NGNによるサービスの検討を行っており、NTTコミュニケーションズはNGNに対応するOCNのネット接続サービスを開始し、NTTぷららはNGNを使ってVODや多チャンネル放送などの各種映像コンテンツを配信するひかりTVサービスを開始した。

通信機器各社も開発を加速しており、現行システムをNGNに円滑に移行できる標準ソフトやNGNを用いた家庭用通信中継器などをすでに開発している。また、USENや任天堂などもNGNによる新サービスの検討を進めている。しかし、一方で多くのポータルサイト運営会社は、メリットが明確に見えないとして静観しており、果たしてNGNの需要が爆発的に伸びるようなサービスが生まれるのかどうか、まったく未知数である。

NTT以外のわが国通信会社のNGNに対する取組みはどのようなのだろうか。KDDIは固定通信と移動通信とを併せ持つ総合通信会社である優位性を生かし、固定とモバイルを融合したFMCサービスを進めているが、今後はこれに放送を加えたFMBC(Fixed Mobile and Broadcasting Convergence)の実現を目指しており、これがKDDIの

NGNと位置づけられると思われる。他の通信会社はNGNに対する方針を明らかにしておらず、むしろソフトバンクなどは、総務省にNGNの解放の徹底を要求してきた。総務省はNTTのNGNを認可するに当たって、NTTが独占的な支配力で競争を阻害しないように、NGNを他の事業者にも開放することを義務づけ、その接続料金を総務省の認可制とした。

NGNはもともと欧州連合の標準化機関で2003年に検討がスタートし、2004年からITU-Tが標準化を進めてきた。2006年にはITU-TにおいてNGNに関するリリース1の種々の勧告が制定されており、各国で開発が進められている。

イギリスのBTはNGNを「21世紀ネットワーク(21CN)」と称して、すでにサービスを開始しており、2011年までに全国展開を終えたいとしている。BTでは、回線は従来の銅線を使って、速度は毎秒24メガとなっており、NGNにした地域は既存の交換網を廃止しており、NTTのNGNとかなり違っている。米国ではITU-TのNGN仕様に基づくネットワークを検討していない。恐らく最終的なサービス形態は似てくるだろうが、途中のプロセスはかなり違ったものになるであろう。

NTTのNGNは間違いなく世界の最先端をいくネットワークである。このNGNが更に発展して、世界に冠たるネットワークとして、世界的にも普及していくことを、強く期待したい。